

はじめに

奈良県における地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）「共創教育：やまと再構築プロジェクト」は、「共創」に、地域が一体となって奈良の創生に取り組むという本事業の理念を、「郷育」に、地元企業や自治体とのつながりを強くした教育プログラムや就職支援プログラムを用意し、多様な地域人材を輩出するという本事業の中核となる目標を込めて、平成27年12月以降、鋭意取り組んでまいりました。

今年度、基幹校である奈良女子大学、参加校である奈良工業高等専門学校、奈良県立大学の三校において、地域創生意識を涵養する教育プログラムが完成しました。奈良女子大学が平成29年度に開講した「なら学+（プラス）」は、県・市町村ならびに県内企業から、実務に携わる専門家を迎えて、奈良の伝統・地場産業、基幹産業などの魅力や現状をお話していただく授業です。参加校教員も地域創生に関する工学技術や観光に関する講義を担当しています。今年度は1コマ授業の同一テーマに対して、行政、民間双方からゲスト講師を招き、地域への理解や地域課題を多面的・多角的に捉えて思考することを促す授業内容としました。これらの科目受講を通じて、奈良の課題を知り、地域創生意識が芽生えた三校の学生たちが、県の政策コンテストや県内企業主催のビジネスプランコンペティション等に積極的に応募・挑戦し、県事業として採択されたケースや学生応援賞をいただいたケースなど、うれしい成果も生まれました。

県内にはいわゆるB to B企業が多く、学生の視野には入りづらい状況がありましたが、昨年度、南都銀行様・奈良経済同友会様に協力いただいた「バスで行く3校合同会社見学会」は、今年度、奈良県雇用政策課様の協力により継続して実施することができました。本事業のKPI指標である地域内インターンシップ参加者数は全体目標値を達成しており、県内企業の認知度が高まっています。

3月に開催しましたシンポジウムでは、三校の学生代表が、それぞれの活動や体験を通じた、「奈良」に対する自分たちの思いを報告しました。また、学生たちに生まれた地域志向意識の高まりを、さらに「定着」へと結びつけるために、「これからの奈良に何が必要か」という問いに対して、ご参会いただいた皆さまと有意義な意見交換を行うことができました。

事業最終年度となる平成31年度には、この4年間で広がった県内企業や自治体とのネットワークをフルに活用・拡充し、若者にとって魅力ある地域の創生に対して、高等教育機関として、より一層貢献できるよう尽力してまいります。

引き続き、本事業へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

奈良女子大学やまと共創郷育センター長 成瀬 九美

目 次

はじめに

1. 3校全体の取り組み

- 1. 1 「共創郷育：やまと再構築プロジェクト」の概要及び各校の役割 …… 2
- 1. 2 やまと共創郷育センターCOC+評価委員会（平成29年度評価） …… 4
- 1. 3 事業の進捗状況 …… 7
- 1. 4 COC+3校の活動実績 …… 12
- 1. 5 COC+参加協働機関から見た本事業の取り組みに対する評価 …… 15

2. 奈良女子大学編

- 2. 1 教育（地方創生を担う人材育成）について …… 22
- 2. 2 就職（企業との関わり）について …… 53
- 2. 3 成果の社会的還元（地域貢献）について …… 73
- 2. 4 今後の取り組みについて …… 84

3. 奈良工業高等専門学校編

- 3. 1 教育（地方創生を担う人材育成）について …… 88
- 3. 2 就職（企業との関わり）について ……104
- 3. 3 成果の社会的還元（地域貢献事例）について ……108
- 3. 4 今後の取り組みについて ……132

4. 奈良県立大学編

- 4. 1 教育（地方創生を担う人材育成）について ……136
- 4. 2 就職（企業との関わり）について ……145
- 4. 3 成果の社会的還元（地域貢献）について ……152
- 4. 4 今後の取り組みについて ……155